

## 平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年1月30日

上場取引所 東大

上場会社名 宝ホールディングス株式会社  
 コード番号 2531 URL <http://www.takara.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 大宮 久  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役IR室長 (氏名) 松崎 修一郎  
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月12日

TEL 075-241-5124

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	149,565	—	9,034	—	9,099	—	5,986	—
20年3月期第3四半期	148,791	△3.9	9,440	6.1	9,612	6.8	5,210	14.1

  

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	27.87	—
20年3月期第3四半期	24.08	24.07

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	203,435	—	109,324	—	47.6	—	454.60	—
20年3月期	207,843	—	113,273	—	48.1	—	462.00	—

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 96,754百万円 20年3月期 99,969百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	—	—	8.50	8.50
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	8.50	8.50

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	195,400	1.8	8,700	2.3	8,700	△4.6	5,200	11.6	24.18

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

## 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注) 詳細は、4ページ「定性的情報・財務諸表等4. その他」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第3四半期 217,699,743株 20年3月期 217,699,743株

② 期末自己株式数 21年3月期第3四半期 4,866,641株 20年3月期 1,313,548株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第3四半期 214,762,343株 20年3月期第3四半期 216,416,956株

## ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成20年11月10日発表の連結業績予想の見直しは行っておりません。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、3ページ「定性的情報・財務諸表等 3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

(文中、前年同期比は前年同四半期連結会計期間の決算数値によっており、参考です。)

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、サブプライムローン問題に端を発した米国の金融不安が、世界的な金融危機や急激な円高の進行を経て、実体経済や雇用情勢の悪化へと進展し、国内でも企業収益の悪化や消費の低迷が現実のものとなっております。このような状況のなか、当社グループは今期よりスタートした第7次中期経営計画の達成に向け、着実な営業活動に努めてまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比100.5%の149,565百万円と若干の増収となりました。しかしながら原材料価格の高騰により売上総利益は減少し、営業利益も同95.7%の9,034百万円となりました。また営業外損益では円高による為替差損が発生したため、経常利益は同94.7%の9,099百万円となりました。特別損益では固定資産売却益の発生などにより、税金等調整前四半期純利益は同99.7%の9,144百万円となりました。また、過去に減損損失を計上していた遊休固定資産の売却により繰延税金資産の計上が可能となったため、四半期純利益は同114.9%の5,986百万円と増益となりました。

事業の種類別セグメントの業績概要及び品種別販売実績（外部売上高）は以下のとおりです。

#### (酒類・調味料セグメント)

当第3四半期連結累計期間の食品業界では、いわゆる事故米の不正転用事件や、中国産乳製品のメラミン混入事件など食の安全にかかわる重大事件が相次ぎました。また年末にかけては、景気低迷の影響や先行きの不透明感から消費マインドの減退が見られました。このような状況のなか、当社グループでは消費者の皆様へ安全で良質な製品を提供することを第一に考え、品質管理体制のさらなる強化に注力するとともに、豊富な品揃えと差別化された商品による営業強化に努めました。

酒類・調味料セグメントの当第3四半期連結累計期間の売上高は、焼酎、ソフトアルコール飲料が前年同期に比べ増収となりましたので、清酒は減少いたしましたものの、セグメント全体の外部売上高は前年同期比101.4%の125,024百万円、セグメント売上高は同101.3%の125,626百万円となりました。

利益面では、原材料価格の高止まりの影響もあり、徹底的なコストダウンに努めましたものの、セグメント営業利益は前年同期比98.5%の9,001百万円となりました。

#### (バイオセグメント)

バイオセグメントでは、長年培われたバイオテクノロジーを活用し、遺伝子工学研究分野、遺伝子医療分野、医食品バイオ分野の3つの領域に経営資源を集中し、業績の向上に努めました。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、遺伝子工学研究分野の減少の影響が大きくセグメント全体の外部売上高は前年同期比94.3%の13,006百万円、セグメント売上高は同94.5%の13,419百万円となりました。

利益面では、売上原価率の低減はありましたものの、売上高の減少に伴い売上総利益は同97.5%の7,117百万円となりました。販売費及び一般管理費で、減価償却費やのれん償却費などの増加があったため、セグメント営業利益は前年同期比14.9%の66百万円となりました。

#### (物流セグメント)

物流セグメントでは、燃油価格の乱高下により先行き不透明な状況のなか、外部売上高は前年同期比101.7%の6,654百万円となり、セグメント売上高は同102.9%の13,088百万円となりました。一方、軽油価格は年末にかけて低下傾向にありましたが、年央の高騰の影響により売上総利益は同97.0%の877百万円となりました。なお販売費及び一般管理費の削減に努めましたので、セグメント営業利益は同103.6%の358百万円となりました。

#### (その他セグメント)

その他のセグメントの外部売上高は前年同期比93.9%の4,880百万円、セグメント売上高は同92.8%の9,126百万円となり、セグメント営業利益は同152.5%の85百万円となりました。

品種別販売実績

事業の種類別セグメントの名称	前第3四半期連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	前年同期比
品種	金額(百万円)	金額(百万円)	(%)
酒類・調味料			
焼酎	57,259	59,596	104.1
ソフトアルコール飲料	15,485	16,172	104.4
清酒	19,642	18,408	93.7
その他酒類	8,806	8,564	97.3
酒類計	101,192	102,741	101.5
本みりん	13,044	12,672	97.1
その他調味料	4,471	4,653	104.1
調味料計	17,516	17,326	98.9
原料用アルコール等	3,443	3,802	110.4
その他	1,103	1,153	104.5
計	123,255	125,024	101.4
パイオ	13,793	13,006	94.3
物流	6,544	6,654	101.7
その他	5,197	4,880	93.9
合計	148,791	149,565	100.5

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は203,435百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,408百万円の減少となりました。その主な要因は、社債の償還資金としての現金及び預金および有価証券の減少や、上場株式の時価下落による投資有価証券の減少などです。負債は1年内償還予定の社債の償還や投資有価証券の時価下落などに伴う固定負債のその他（繰延税金負債）の減少がありましたが、年末の銀行休日による未払酒税の増加などもあり同459百万円減少の94,110百万円となりました。純資産は、利益剰余金の増加はあったものの、株主還元策としての自己株式の取得や、時価下落に伴うその他有価証券評価差額金の減少および円高による為替換算調整勘定の減少などにより同3,948百万円減少し109,324百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益9,144百万円や減価償却費3,762百万円などがありましたが、例年の年末繁忙期の売上による売上債権の増加△14,738百万円などがありましたので2,189百万円となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の売却による収入1,983百万円や有形及び無形固定資産の取得による支出△1,989百万円、および3か月を超える資金運用目的の有価証券の取得による支出△1,601百万円などにより△1,975百万円となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の償還による支出△5,000百万円や自己株式の取得による支出△2,221百万円および配当金の支払額△1,840百万円などにより△9,233百万円となり社債の発行のあった前年同期間に比べ△12,684百万円の支出超過となりました。また、現金及び現金同等物の当第3四半期末残高は前連結会計年度末より9,356百万円減少し、32,994百万円となりました。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成20年11月10日に公表いたしました通期業績予想の修正は行っておりません。なお、当社は従来より売上高の第3四半期連結会計期間のウェートが高い傾向にあります。現在までの売上高および営業利益の進捗はほぼ予想通りであります。

#### 4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）  
該当事項はありません。
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
記載すべき事項はありません。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
  - ① 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。
  - ② 第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号）を適用し、評価基準について収益性の低下に基づく簿価切下げの方法に変更しております。また本会計基準の適用を契機に、一部の国内連結子会社で従来営業外費用で処理しておりました原材料廃棄損を売上原価で処理することといたしました。これらの変更により、当第3四半期連結累計期間の営業利益は148百万円、税金等調整前四半期純利益は70百万円それぞれ減少し、経常利益は25百万円増加しております。
  - ③ 第1四半期連結会計期間より「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号）を適用し、連結上必要な修正を行っております。これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ95百万円減少しております。
  - ④ 第1四半期連結会計期間より「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号）及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第16号）を早期適用しております。これにより、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっていた所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更しております。また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。この変更により損益に与える影響は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	25,203	26,529
受取手形及び売掛金	61,366	46,990
有価証券	11,208	18,132
商品及び製品	19,742	20,575
仕掛品	960	1,420
原材料及び貯蔵品	3,332	3,100
その他	4,438	4,209
貸倒引当金	△121	△160
流動資産合計	126,131	120,796
固定資産		
有形固定資産	44,566	47,341
無形固定資産		
のれん	2,346	2,930
その他	2,694	3,630
無形固定資産合計	5,040	6,561
投資その他の資産		
投資有価証券	20,589	26,122
その他	7,510	7,427
貸倒引当金	△403	△405
投資その他の資産合計	27,696	33,144
固定資産合計	77,303	87,047
資産合計	203,435	207,843
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,937	14,301
短期借入金	5,049	4,964
1年内償還予定の社債	—	5,000
未払酒税	13,584	7,784
未払費用	4,435	4,475
未払法人税等	2,087	2,287
賞与引当金	1,051	1,985
販売促進引当金	1,685	1,466
その他の引当金	46	24
その他	6,192	5,316
流動負債合計	50,070	47,607
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	5,585	5,718
退職給付引当金	9,089	8,899
長期預り金	6,503	6,639
その他	2,860	5,705
固定負債合計	44,040	46,963
負債合計	94,110	94,570

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,226	13,226
資本剰余金	3,199	3,204
利益剰余金	81,269	77,342
自己株式	△3,209	△1,011
株主資本合計	94,485	92,761
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,471	6,679
繰延ヘッジ損益	△59	△46
為替換算調整勘定	△1,143	575
評価・換算差額等合計	2,269	7,208
少数株主持分	12,570	13,303
純資産合計	109,324	113,273
負債純資産合計	203,435	207,843

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間  
(自平成20年4月1日  
至平成20年12月31日)

売上高	149,565
売上原価	91,788
売上総利益	57,776
販売費及び一般管理費	
販売促進費	20,174
販売促進引当金繰入額	1,685
賞与引当金繰入額	572
その他	26,309
販売費及び一般管理費合計	48,741
営業利益	9,034
営業外収益	
受取利息	233
受取配当金	419
その他	276
営業外収益合計	929
営業外費用	
支払利息	459
為替差損	247
その他	158
営業外費用合計	864
経常利益	9,099
特別利益	
固定資産売却益	698
その他	66
特別利益合計	764
特別損失	
固定資産除売却損	159
投資有価証券評価損	289
その他	270
特別損失合計	719
税金等調整前四半期純利益	9,144
法人税、住民税及び事業税	3,933
法人税等調整額	△741
法人税等合計	3,191
少数株主損失(△)	△33
四半期純利益	5,986

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間  
(自 平成20年4月1日  
至 平成20年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	9,144
減価償却費	3,762
受取利息及び受取配当金	△653
支払利息	459
売上債権の増減額 (△は増加)	△14,738
たな卸資産の増減額 (△は増加)	186
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,818
未払酒税の増減額 (△は減少)	5,800
その他	501
小計	6,281
利息及び配当金の受取額	699
利息の支払額	△428
法人税等の支払額	△4,361
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,189
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△1,760
定期預金の払戻による収入	1,597
有価証券の取得による支出	△1,601
有形及び無形固定資産の取得による支出	△1,989
有形固定資産の売却による収入	1,983
その他	△205
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,975
財務活動によるキャッシュ・フロー	
社債の償還による支出	△5,000
自己株式の取得による支出	△2,221
配当金の支払額	△1,840
その他	△171
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,233
現金及び現金同等物に係る換算差額	△336
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△9,356
現金及び現金同等物の期首残高	42,350
現金及び現金同等物の四半期末残高	32,994



当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)						
	酒類・ 調味料 (百万円)	バイオ (百万円)	物流 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	125,024	13,006	6,654	4,880	149,565	—	149,565
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	602	413	6,434	4,246	11,696	(11,696)	—
計	125,626	13,419	13,088	9,126	161,261	(11,696)	149,565
営業利益	9,001	66	358	85	9,512	(477)	9,034

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分は、製品の種類・性質に加え販売市場の類似性などを考慮して、酒類・調味料、バイオ、物流及びその他の4事業に区分しております。

2. 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
酒類・調味料	焼酎、ソフトアルコール飲料、清酒、ワイン、ウイスキー、中国酒、本みりん、食品調味料、原料用アルコール
バイオ	研究用試薬、理化学機器、研究受託サービス、遺伝子工学研究関連特許実施許諾対価料、遺伝子導入関連製品、キノコ、ブナシメジ特許実施許諾対価料、バイオ医食品
物流	貨物運送業、倉庫業、流通加工業
その他	ラベル、ポスター、カタログ、カートン、段ボールケース、包装紙、販促用品、不動産賃貸、健康食品

3. 会計処理の方法の変更

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

「定性的情報・財務諸表等」4.(3)②に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて当第3四半期連結累計期間では、酒類・調味料事業の営業利益が166百万円、その他事業の営業利益が0百万円減少し、バイオ事業の営業利益が19百万円増加しております。

(連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い)

「定性的情報・財務諸表等」4.(3)③に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号 平成18年5月17日）を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間のバイオ事業の営業利益が95百万円減少しております。

[所在地別セグメント情報]

当第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）

全セグメントの売上高の合計に占める「本邦」の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

当第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

科目	前年同四半期 (平成20年3月期 第3四半期)
	金額(百万円)
I 売上高	148,791
II 売上原価	90,727
売上総利益	58,064
III 販売費及び一般管理費	48,624
営業利益	9,440
IV 営業外収益	999
V 営業外費用	827
経常利益	9,612
VI 特別利益	1,096
VII 特別損失	1,535
税金等調整前四半期純利益	9,173
税金費用	3,845
少数株主利益	117
四半期純利益	5,210

## (2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前年同四半期 (平成20年3月期 第3四半期)
区分	金額(百万円)
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	9,173
減価償却費	4,041
売上債権の増減額(増加:△)	△11,111
たな卸資産の増減額(増加:△)	545
仕入債務の増減額(減少:△)	2,555
未払酒税の増減額(減少:△)	2,758
その他流動負債の増減額(減少:△)	△2,875
その他	△1,231
小計	3,855
法人税等の支払額	△3,706
その他	249
営業活動によるキャッシュ・フロー	398
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形・無形固定資産の取得による支出	△3,145
投資有価証券の取得による支出	△533
投資有価証券の売却による収入	1,254
投資有価証券の償還による収入	1,000
関係会社株式・出資金の売却による収入	861
その他	△938
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,501
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
社債の発行による収入	9,923
社債の償還による支出	△5,000
コマーシャル・ペーパーの発行による収入	5,000
コマーシャル・ペーパーの償還による支出	△5,000
配当金の支払額	△1,622
その他	150
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,450
<b>IV 現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	△22
<b>V 現金及び現金同等物の増減額(減少額:△)</b>	2,325
<b>VI 現金及び現金同等物の期首残高</b>	29,601
<b>VII 現金及び現金同等物の期末残高</b>	31,927

(3) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前年同四半期（自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日）

	酒類・調味料 (百万円)	バイオ (百万円)	物流 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高	123,964	14,202	12,725	9,838	160,731	(11,939)	148,791
営業費用	114,827	13,754	12,379	9,782	150,743	(11,391)	139,351
営業利益	9,136	448	345	56	9,987	(547)	9,440

〔所在地別セグメント情報〕

前年同四半期（自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日）

全セグメントの売上高の合計にしめる「本邦」の割合が、90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載は省略しております。

〔海外売上高〕

前年同四半期（自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。